学校訪問

部活動

尾久八幡中学校

西尾久３－14－１

生徒が部活動を紹介します

バドミントン部

▲朝練の様子。基礎打ちをしています

▲男女一緒に頑張っています

私たち尾久八幡中バドミントン部は、２年生11人、１年生17人の計28人で活動しています。先輩と後輩の仲が良く、とても活気あふれる部活です。

バドミントンは高い瞬発力と豊富な体力が必要なスポーツです。練習では、ランニングやフットワークなどで瞬発力と体力を強化し、シャトルを使った基礎打ちなどで技術を強化しています。どんなにつらい練習でもみんなで声をかけ合い、一つ一つのことに集中して取り組んでいます。

私たちは「One for all, all for one.」をモットーに活動しています。バドミントンは個人競技ですが、一人ひとりが尾久八幡中バドミントン部の一員として一丸となり、チームでお互いを高め合うことを大切にしています。

◀放課後練の様子。大会に向けて試合形式で練習をしています

10月に行われた荒川区中学校バドミントン新人大会では、男子シングルスで優勝、男子団体で二位に入り、ブロック大会出場が決まりました。目標はブロック大会でベスト４に入り、都大会に出場することです。

これからも、みんなで技術を高めあうとともに、心も成長できるような『いい部活』を目標に練習に励んでいきたいと思います。

執筆　２年　後藤日奈子

学校自慢

第三日暮里小学校

東日暮里３－10－17

学校の自慢を児童が紹介します

▲箏の演奏を通して日本の伝統文化の理解を深めます

▲毎朝行っている挨拶運動

私たちの学校の自慢は三つあります。まずは、挨拶です。毎朝、玄関の前で三日カラーであるオレンジ色のたすきをつけて、地域の方や登校してくる友だちに元気よく挨拶をしています。挨拶をすると、すっきりした気分になります。また、廊下ですれ違った人や先生方にも挨拶をしています。

次に、伝統文化です。三日小では、クラブ活動の中に伝統文化クラブや箏・音楽クラブがあります。茶道や華道、箏を専門の先生に教えていただいています。伝統文化を間近に感じられるので、とても楽しいです。

最後に、読書です。三日小では、朝に読書タイムがあります。みんな静かに集中して読書に取り組んでいます。また、６月と２月は、読書月間となっており、学年ごとに目標冊数や目標ページを決めてがんばっています。目標を達成できると賞状がもらえます。三日小の児童は、みんな本を読むのが大好きです。

今、取り組んでいることを今後も三日小の伝統として引きつぎます。そして、いつも笑顔が絶えない仲のよい学校にしていきたいです。

執筆　６年　梅田萌花　横山ひより　佐藤茉奈

あらかわリサイクルセンターがオープンしました！

区の清掃リサイクル事業の拠点として「あらかわリサイクルセンター」が南千住三丁目にオープン、10月９日には披露式典がありました。

この施設では、区内で回収した資源（びん・缶・ペットボトル・食品用トレイ）を破砕・圧縮する処理などを行います。また、施設内にある工房・研修室では、廃食油からキャンドルを作ったり、ガラス棒からとんぼ玉を作る教室が開催され、回収された資源を使ってさまざまなモノに生まれ変わる様子を実際に体験することができます。

▶式典であいさつする西川区長

▶びんや缶などの資源を破砕・圧縮処理する工場エリア

荒川図書館 変わりゆく街並み写真展を開催

昭和37年に開館した荒川図書館が12月18日で休館し、平成29年３月26日開館予定のゆいの森あらかわに移ります。それに伴い、開館以降の区内風景が分かる写真展を開催します。ぜひ、見に来てください。

▲荒川図書館は区内で初めての図書館でした

日時　12月18日(日)まで　※(月)・第３(木)を除く
午前９時30分～午後７時30分
※(土)・(日)・(祝)は午前９時30分～午後５時

場所・問合せ　荒川図書館☎（3891）4349

あらかわ今昔ものがたり　あらかわの歴史と伝説

その104　池田屋敷と主治医森昌庵さん ～あらかわの武家屋敷②～

荒川ふるさと文化館の企画展「三ノ輪の殿様」、見に来てくれたかな？　展示から、武家屋敷がジョイフル三ノ輪商店街や都電三ノ輪橋駅の周辺に集まっていたことが分かったよね。今回は「あらかわの武家屋敷」第２段！　大関横丁の南西にある池田屋敷のお話だよ。

三ノ輪の池田屋敷って？

屋敷の跡は、明治通りの南側の都営住宅や東日暮里一丁目公園の辺りにあった。どこのお殿様のお屋敷なのかな。調べてみると、持ち主は、播磨国新宮（現兵庫県たつの市）が国元の池田様。元和元年（１６１５）、徳川家康が豊臣家を滅ぼした大坂夏の陣でご先祖様が活躍したので、１万石の大名に取り立てられた。その後、跡継ぎが無かったためにお家断絶になりかけたけど、親戚の池田家の助けで、新宮に３千石の領地をもらって、旗本になったんだってさ。

池田様が屋敷の土地を徳川幕府からもらったのは、寛文元年（１６６１）のこと。それに西側の土地を買い足して、約７千坪（２３１００㎡）の屋敷が登場したんだ。この頃の屋敷の図面が残っていないので、詳しくは分からないけれど、安政の大地震の被害の様子から、表門・裏門・土蔵・殿様の住居・家臣の長屋・稲荷・板塀・玄関・客座敷などがあったことが分かっているんだよ。なかなか立派なお屋敷だろう。

殿様の主治医・森昌庵さん

池田家十二代の殿様は池田頼方といって、町奉行も務め出世した人だ。頼方様には、森昌庵という主治医がいたんだ。昌庵さんは、沢山の随筆を残した通新町（国道四号線沿いの町）の住人、加藤雀庵さんと親友だった。雀庵さんは孫を連れて池田屋敷の昌庵さんを訪ねたこともあったそうだ。でも天保11年（１８４０）、昌庵さんは亡くなってしまった。

天王様の森昌庵追慕の碑

翌年、息子・正朝（号・旦猷）さんは、お父さんを偲んで記念碑を建てることにした。そこで、お別れの言葉を雀庵さんに、肖像画を長谷川雪旦さんに依頼したんだ。雪旦さんは、正朝さんの絵の先生。「江戸名所図会」という江戸のガイドブックの挿絵で有名な売れっ子画家だ。描いたのは薬缶で薬を煎じる昌庵さんの後姿。雀庵さんの文は「かくれ蓑のみのわの里」で始まり、三ノ輪の池田様に医師として仕えていたことも記されているんだ。この碑は、南千住六丁目の素盞雄神社の境内、松尾芭蕉の句碑の近くにあるよ。

みんなも、今度、三ノ輪の武家屋敷跡探検にチャレンジして、森昌庵さんの石碑も見学してみてね。

区指定有形文化財　森昌庵追慕の碑（素盞雄神社蔵）

問合せ　荒川ふるさと文化館☎（3807）9234

R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています。